

柏崎中央ロータリークラブ 留学生懸賞文コンテスト

優秀賞

柏崎市の魅力と その地域資源の活用について

(下)

満 達 (新潟産業大学 経済学部
文化経済学科2年)

Ⅱ、柏崎市の地域資源の活用方法のつづき

Ⅱ-2 観光資源の開発
柏崎市の自然や文化遺産を活かした観光資源を開発する。例えば、山岳地帯のトレッキングコースや歴史的な建築物の見学ツアーなど、多様な観光体験を提供することが求められる。また、「柏崎地域観光推進協議

会」及び「かしわき味堪能事業実行委員会」、「柏崎市インバンド推進協議会」への参加を多くの団体や個人に募り、市町村および関係団体との連携のもと各種事業に取り組み、県内外からの観光客誘致や地域資源を活かした物品の販売促進等を図ることも必要である。それにより、地域の観光関連産業の振興を図ることができる。

Ⅱ-3 地域のコミュニティ組織の活性化
地域の住民や事業者が協力して、柏崎市の魅力を発信するための組織を作り、地域イベントやプロモーション活動を行うことが重要である。令和2年に実施された地域活性化推進事業は効果的で優れた取り組みだと思

う。以下に、その事業の詳細をあげる。
① 交流人口拡大施策
戦略的広報事業
事業目的：「水球のまち柏崎」のブランド化を図るため、県内外に戦

略的にPRすることにより、県内外及び地元サポーター（地域住民の水球ファン）の裾野を拡げるとともに、交流人口を拡大させて新たな経済効果を生み出す。
③ 新たな海の柏崎モデル事業
事業目的：市内に15の海水浴場を有する柏崎市にとつて、夏が観光の中心だが、海水浴客数は平成22年度（2010年）の約101万人から令和3年度（2021年）は約25万人と大きく減少しており、海の家や民宿も減少している。そのため、従来の海水浴を中心とした観光からの転換に取り組み、特色を活かした新たな魅力を創出することを目的に実施した。

おわりに
今後、大きくなる問題点がいくつかあると思われ。私は柏崎にきたばかりで実体験はないが、友人や知人から聞いた話や自分自身の印象などをとに推測してみる。
問題の一つ目は人口が減っていき、若者たちがどんどん離れていくことである。農業においては受け継ぐ人が年々減り、農業に使われる土地が減っていく。この問題に対処するには、人口を増やしていく必要がある。柏崎市をより住みやすい町にするため、結婚や子育てを困難なものからたやすいものによりスムーズに変えていくことが重要である。そのため

に力を合わせて努力する
といたいと思う。
二つ目は冬の雪問題である。柏崎市では空を覆う雪量の平均割合は、一年を通して大きな季節変動がある。気候は比較的温暖だが、冬は北西の季節風が強く山間部に行くにしたがって、急激に積雪量が増加する。市民の活動が制限されたり、除雪に追われたりするなか、積雪は市民生活に大きな影響を与える。したがって、生活の利便性を確保する取り組みを行わなければならないと思う。
三つ目は外国人受け入れの問題である。現在、日本は労働者不足で外国人の労働力に頼らなければならない状況にある。柏崎も同様である。今度

は多くの外国人を受け入れ就職や転職なく外国人を柏崎で生活させるのに必要なサポートをしていかなければならないと思う。外国人受け入れサポートセンターを作り、活用することが必要だ。外国人が就職できる業種を増やし、外国人が考える働きたい町のランキングにおいて、柏崎市のランクをアップさせていかなければならないと思う。このような厳しい問題が起こることが考えられる。この状況を変えていき、柏崎市の魅力を広く知らせるためには、地域PR活動の強化、観光資源の開発、地域のコミュニティ組織の活性化などが必要である。これらの取り組みを通して、柏崎市の魅力を多くの人々に伝え、地域の振興と発展につなげることが期待される。

「柏崎の研究」発表19日

工大と産大 若い視点・発想 商議所で

柏崎商工会議所総合建設部会(阿部尚義部会長)が19日午後5時半から、新潟工大、新潟産大の学生による「柏崎に関する研究発表会」を開く。会場の同商議所またはオンラインで視聴できる。主催はほかに県建設業協会柏崎支部、柏崎建設業協同組合。視聴無料。発表会は、柏崎の二つの大学で勉学に励む学生が、

柏崎に関するテーマを中心に研究した成果を報告する場として親しまれる。本年度で22回目。「柏崎をより住みよい街に」「柏崎を活性化させるために」のテーマで、若い学生ならではの視点・発想から提案してもらう。また柏崎の未来を考える上でのヒントも期待される。終了は7時。

会場視聴(商議所大研修

室)は定員30人。オンライン視聴(Zoom利用)は定員80人、いずれも先着順。申し込みは13日までに所定の申込用紙で、会場視聴の希望はアクセスまたはメールで、オンライン視聴の希望はメールで、商議所中小企業相談所(電話22・3161、ファクス22・3570、電子メールogawa@kas

hiwazaki.cci.or.jp)へ。研究発表は次の通り。

【工大】軽自動車です

搬できる女性一人で組み立て可能なタイヤの開発Ⅱ大学院工学研究科・三宅春香▽リアルタイムデータに基づくコミュニケーションを用いたナビゲーションシステムⅡ工学科・山田裕介▽大深度井と大学校舎の振動計測結果を用いた震度予測図との比較に関する研究Ⅱ工学科・駒野大和▽私たちのフィールド〜柏崎中心市街地におけるまちとサッカ

ーの相互成長Ⅱ工学科・原澤祐樹

【産大】道の駅を活用した小規模自治体等の活性化Ⅱ西山町を事例とした研究Ⅱ経済経営学科・奥野飛龍、岩田桜也、村上翔琉▽えんま市の経済効果Ⅱ同・小柳翔、堀川蒼太、矢島深也、鈴木凜太郎▽柏崎市高柳町の耕作放棄地再生(森林化)活動Ⅱ文化経済学科・伊藤俊佑▽地域活動から生まれたつながりから新たなつながりへⅡ同・池嶋菜央、後藤麗玖

冬フェスで 柏崎盛り上げ

まちからで11日
摩大生ら企画

大学生が地域の人と柏崎の冬を盛り上げようというフェスティバル「柏崎の冬を若者の力で盛り上げ隊」が11日午前10時半～午後3時、市内西本町3の市民活動センター「まちから」で開かれる。ステージ、飲食、出店、体験、学びなどを繰り広げる。主催は「まちから」研究室@新潟産大。

冬のフェスは昨年続き3回目。参加は同大学友会、茶道部・写真部・書道部、権田ゼミのほか、新潟工大と新潟大も。市内店はくらしのサポートセンターえきまえ、いろは製菓所、FREKKERIA、マリブカフェ、しましま。ステ

ージ発表はよさこい(新潟総踊り連風雅)、キッズダンス(オオダンスクール)など。まちから駐車場が満車時はみなとまち海浜公園の利用を呼び掛けている。

新潟産業大学附属柏崎研究所主催



第6回 柏崎学シンポジウム

「人口減少の中でも幸せ感をはぐくむ!を考える」

～変化に対応する創造的な地域活動の視点～



参加費
無料

2024

2/25(日) 13:00～16:30

新潟産業大学 講堂

(柏崎市経井川4730)

お申し込み・お問い合わせ先

TEL.0257-24-8664

media@ada.nsu.ac.jp

申込締切 2/22(木)

協賛等 / 株式会社 **ブルボン** 株式会社阿部建設
後援 / 柏崎市、刈羽村、出雲崎町、新潟県柏崎地域振興局
(予定) 柏崎商工会議所、柏崎市商工会、(一社)柏崎青年会議所
柏崎市コミュニティ推進協議会

第一部

地域からの活動報告 13:10～14:20頃

- 新潟県立松代高校2年生代表 小山咲姫さん、庭野人和さん、小野嶋 悠さん
- 別保の未来を考える会代表 小暮 覚 氏
- 合同会社まちづくりえんま代表 長谷川敏栄 氏
- 佐渡見平コスモス畑 黒崎裕人 氏
- 高柳農業振興会事務局長 伊藤直樹 氏

※質問・コメンテーター / 新潟産業大学 金 光林教授、小林健彦教授

第二部

パネルディスカッション

「創造的な地域活動の視点」 14:30～16:20頃

- パネラー / (一社)持続可能な地域社会総合研究所長 藤山 浩 氏
徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授 田口太郎 氏
新潟産業大学附属柏崎研究所主席研究員 春日俊雄

※コーディネーター / 西村遼平氏(レストランオーナー、地域づくり講師)

くらしの情報サービス

柏日案内コーナー

催し物

「柏崎の冬を若者の方で盛り上げ隊」。11日午前10時半～午後3時、市内西本町3の市民活動センター「まちから」。ステーションベントや飲食、出店、体験、学びなど多彩に。問い合わせは新潟県地域連携センター(電話24・8441)へ

▼柏崎冬のフェスティバル

▼新潟工科大、新潟産大の学生による「柏崎に関する研究発表会」。19日午後5時半～7時。会場視聴(柏崎商工会議所大研修室)は定員30人、オンライン視聴(Zoom利用)は定員80人。無料で先着順。申し込みは13日までに所定の申し込み用紙で、会場希望者はファクスまたはメールで、オンライン希望はメールで商議所中小企業相談所(電話22・3161、ファクス22・3570、電子メールogawa@kashiwazaki

ccior.jp)へ

市教育委員会表彰 (F)

【体育関係】続き▼中学
 校▽片山明星(空和会) Ⅱ第43回新潟県スボーツ少年団競技交流大会第47回空手道大会中学生男子形1位▽神田大雅(極真館新潟県支部柏崎道場) Ⅱ2023極真館カザフスタン14、15歳男子型の部1位▽山崎さくら、佐藤純羽(柏崎ライフセーリングクラブ) Ⅱ第20回全日本ユース選手権大会2023(サーフ種目)ペーU15女子ボードレスキュー15位▽長岡JYFC(猪爪磯六、遠藤琉加、永井楓大、柴野広夢) Ⅱ2023年度新潟県クラブユースサッカー(U-14) 新人大会1位▽藤代泰(柏崎空道協会) Ⅱ第13回新潟県選抜空道選手権大会U161位▽柏崎リトルシニア(藤原都栄夫、有岡英進、五十嵐一弥、伊比禮規、大橋龍聖、田村海翔、宮崎翔矢、村山泰生、柳源太郎、市川里桜、片山亮太郎、末崎空我、渡辺秀斗、藤原愛吉夢、五十嵐颯) 磯部海星、小原雄斗、春日勇誠、土田謙、藤本健六、星野琳青、柳陽貴) Ⅱ第44回リトル・リトルシニア新潟アロック会長杯争奪戦大会兼第25回第四北越銀行旗争奪戦大会リトルシニアの部1位▽片山航祐(三三中3年) Ⅱ新潟県中学校総合体育大会陸上競技種高跳び1位▽池田夏海、池田彩夏(長岡Joias) ⅡJFA第14回全日本U-15女子フットサル選手権大会北信越大会2位▽田中晋人(極真会館柏崎分道場) Ⅱ第30回全関東空手道選手権大会中学2・3年男子1位▽アルボンウォーターポロクラブ柏崎(樋口真彩、武石純羽、長門郁樹、本間心香、駒野未術、三宮泰菜、竹内乃映、武田明莉、福田佳澄) Ⅱ第46回全園JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会水球競技C区分ベスト8▽アルボンウォーターポロクラブ柏崎(後璃杏、武石純羽、長門郁樹、本間心香、瀬下碧海、駒野未術) Ⅱ第9回全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会女子3位▽アルボンウォーターポロクラブ柏崎(小笠原優樹、水野航) Ⅱ同大会男子ベスト8▽高校▽佐々木翼(柏崎空道協会) Ⅱ2023第3回世界空道ジュニア選手権大会U19男子240以下4位▽近藤駿斗(極真館新潟支部柏崎道場) Ⅱ2023春季全日本空手道選手権大会高校生男子型の部2位▽アルボンウォーターポロクラブ柏崎(柳森海綺、佐藤由依、山田果林、平木青空、中井茉莉) Ⅱ第9回全日本ジュニア(U17)水球競技選手権大会女子3位▽アルボンウォーターポロクラブ柏崎(中村有香、加藤慶大、徐浩智、樋口征那、郭亞藥、牧野稜、佐藤陽生、桑原ゼン、品田大貴、長門玄城、斎藤秀吉) Ⅱ同大会男子ベスト8▽灰野軍緒(チームクレブ) Ⅱ第41回JSA全日本スノーボード選手権大会スロースタイルオプショナル男子1位▽座大附属卓球部(山岸唯菜、佐藤野々華、渋谷真央、多田健亮、青山岸愛菜) Ⅱ2023年度北信越高等学校総合体育大会卓球競技女子学校対抗1位▽座大附属卓球部(倉又夢歩、佐藤那樹、山岸駿、高橋凌太郎、佐山颯大、小林侑立、吉田蓮) Ⅱ同大会男子学校対抗2位▽中島隼輝(座大附属3年) Ⅱ同大会男子シングルス3位▽山岸唯菜(同2年) Ⅱ同大会女子シングルス3位▽山岸唯菜、佐藤野々華(同) Ⅱ同大会女子ダブルス2位▽松田若葉(同3年) Ⅱ第62回北信越高等学校陸上競技対校選手権大会女子七種競技3位▽米山竜之介(同1年) Ⅱ2023年度北信越高等学校新人陸上競技大会男子2000m3位▽田辺琉輝(同2年) Ⅱ同大会男子円盤投げ2位▽池田咲那(同) Ⅱ第56回北信越高等学校選手権水泳競技大会競泳女子200mバタフライ2位▽座大附属水泳部(徐浩智、樋口征那、加藤慶大、郭亞藥、牧野稜、斎藤秀吉) Ⅱ新潟県高校新記録大会4位(新潟県高校新記録)▼一般▽棚村克行、新田一景、稲場悠介(アルボンウォーターポロクラブ柏崎(社会人)) Ⅱ第19回アジア競技大会男子水球1位(日本代表として出場) 【PTA・感謝状】鏡が沖中学校PTA Ⅱ2023年度優良PTA文部科学大臣表彰▽田辺修一 Ⅱ日本PTA会長表彰(特別)▽布施真 Ⅱ感謝状▽柳重栄(市展運営委員長) Ⅱ2009年度から市展運営委員、11年度から運営委員長

催しもの

11日・日曜日

★柏崎冬のフェスティバル
「柏崎の冬を若者の力で盛り上げ隊」 午前10時半～午後3時、市内西本町3の市民活動センター「まちから」。ステージイベントや飲食、出店、体験など。

『新潟大学スズミ』 地域に学ぶ 地域をみす

— 史跡活動レポート —

観光や地域課題 学生ら方策検討

近年、地方創生に寄与するものとして「観光」が注目されている。今年度の地域理解セミナー(地域観光分野)では、柏崎という地域への理解を深めるのはもちろんのこと、観光を通じての地域活性化について検討・提案することを目指した。そこで、学生はグループワークをして柏崎地域の課題を検討し、

その上で柏崎市と三条市でのフィールドワークを実施した。

昨年12月7日には、高柳じよんのび村(高柳町)を訪問した。当日は、吉村英治氏(株式会社じよんのび村協会代表取締役)と春日俊雄氏(本学客員講師)にレクチャーしていただいた。2人から、若年層や県外観光客インバウンドをどのように惹(ひ)きつけ、集客へと結びつけていくのかなどを取り組み事例や数字を交え、話をしていた

き、学生からの質問にも答えていただいた。

今回の訪問で、大杉幸汰さん(経済経営学科2年)は「高柳じよんのび村はイベント内容の充実化を図っており、常に進化を続けている施設」であり、「経営の実情や改善の方策をうかがったことで、私たちが実行できることを考えるための有意義な時間となりました」と話した。

このように、学生は座学と実地調査を通して観光のあり方を考え、地域発展の方策を検討した。そして、1月18日の地域理解セミナー合同発表会では、柏崎の活性化のための提案をすることもできた。

今後も、教育研究活動

を通じて、柏崎の「魅力的な場所」はどこか、どのように情報を発信していけばよいか等を学生と一緒に継続して考えていきたい。さらには、地域の課題解決や発展に向けて

て、本学の教育研究の成果を還元できるよう活動していければと思う。
同大学経済学部・助教 漢谷朋樹
同大学地域連携センタ



人口減少の中でも幸せ感

活動報告とパネル討論

柏崎学シンポジウム 産大で 25日

新潟産大附属柏崎研究所（所長 住吉廣行副学長）が25日午後1時から、第6回柏崎学シンポジウムを同大で開く。テーマは「人口減少の中でも幸せ感をはぐくむ！を考える〜変化に対応する創造的な地域活動の視点〜」。活

動報告、パネルディスカッションの2部構成で進める。同大は「地域の地（知）の中核的拠点」として2016年度、柏崎研究所を開設した。柏崎学では地域の産業、経済、社会、歴史・文化、観光・スポーツなどさまざまな分野に関する調査・研究を行い、課題解決や振興に寄与することを目的にしている。近年、人口減少と相まって地域を取り巻く社会の変化がますます速くなり、従来の対応や仕組み、組織などがうまく機能しなくなる

64、電子メール eda@ataman.ac.jpへ。締め切りは22日。発表は次の人たち。

【第1部】 県立松代高2年生代表（小山咲姫、庭野人和、小野嶋穂）▽別後の未来を考える会代表・小暮寛▽合同会社まちづくりえんま代表・長谷川敏栄▽佐渡見平コスモス畑・黒崎裕人▽高柳農

業振興会事務局長・伊藤直樹

【第2部】 持続可能な地域社会総合研究所長・藤山浩▽徳島大大学院社会産業理工学研究部教授・田口太郎▽新潟産大附属柏崎研究所主席研究員・春日俊雄▽コーディネーター・西村遼平（レストランオーナー、地域づくり講師）

柏崎で働く魅力考える

雇用促進協 大学生と若手社員が交流

柏崎職安管内雇用促進協議会は16日、大学生から柏崎地域で働く魅力を知ってもらおうと、管内企業の若手社員との交流会を柏崎商工会議所で開いた。企業側

から20代の社員5人、市内外の大学1〜3年生の27人がパネルディスカッションやワークショップを通して理解を深めた。交流会は地元定着事業の



若手社員と学生が地元就職について意見を交わした交流会16日、柏崎商工会議所

一環。最初にパネリストの深井楓さん(インザカ)、山崎拓真さん(ツクイ)、金井晃一さん(ナルボン)、松崎豊さん(市役所)、カ石真碩さん(小林組)が就職を決めた時期や志望動機、やりがいなどを語った。この中で大学生に対し

「就活のスタートはみな同じだが、ゴールは人それぞれ。妥協せずに頑張って」「将来やりたいことを実現できそうな会社を探してみてもいい」とアドバイス。続いてワークショップでは、各アールごとに働きたい職場環境や柏崎の良さについて意見を交わした。

参加学生の一人、新潟工

科大3年・岩崎隼さんは

「有意義な時間を過ごせ、

視野も広がった。建築一本

で就活をしようと思ってい

たが、さまざまな業種も考

えてみたい」。新潟産大3

年・南唯香さんは「横のつ

ながりも生まれ、刺激を受

けた。地元新潟に貢献できる仕事に就きたい」と話した。

大学生が企画し 冬フェス多彩に

大学生が地域の人と柏崎の冬を盛り上げるフェスティバルが市内西本町3の市民活動センター「まちから」で開催された。飲食や体験ブース、ステージ発表などまであった。

同フェスは昨年に続き3回目。主催は「まちから」研究室(新潟大)。11日に開催した。キッズダンスに出演した荒浜小3年・柴野明澄さんは「新しい振り付けも大きく踊れた」と笑顔。母親の杏奈さん(35)は「冬

にこういうイベントがあると子供たちも喜ぶ。人がいっぱいになりや」と各ブースを回った。

別保地区での1年間の活動を紹介した新潟大2年・堀内颯太さんは「別保は何回も通い、顔と名前を覚えてもらった。今日も地域の

人から足を運んでもらえてうれしい。これまで地域行事に参加していたが、今後はイベントを企画し、別保の活性化の役に立ちたい」と意気込んだ。

主催した新潟大4年・後藤麗玖さんは「これまでのゼミ活動を通して、つな

がりを増やしており、今年は参加団体も3つ増えた。今後はもっと大きなイベントにしていきたい」と話した。



大勢の人が詰めかけた冬のフェスティバル。市内西本町3のまちから

「柏崎の研究」に8テーマ

工科大と 産大生 若い発想、視点で

最優秀「まちとサッカー」



8テーマの審査が行われた「柏崎に関する研究発表会」。サッカーとまちの相互成長を訴え、最優秀となった工科大4年・原澤さん。19日、柏崎商議所

柏崎商工会議所総合建設部会（阿部尚徳部会長）の「柏崎に関する研究発表会」が19日、同商議所で行われ、オンライン視聴と合わせ、約80人が参加した。新潟工科大、新潟産大の学生が若い発想、視点で発表した。審査の結果、中心市街地にサッカーコートを設け、選手とまちが相互に成長することを企画した新潟工科大4年・原澤拓樹さんが最優秀賞に選ばれた。

発表会は、二つの大学の学生が見た柏崎のまちや地域の活性化、これまで取り組んだ研究を発表する場として親しまれる。22回目の本年度の発表は8テーマ。西山町の「道の駅」を活用した買い物難民、子育て世代支援策の研究を皮切りに、次々と発表が続いた。阿部会長ら3人が研究内容や新規性、社会性、提案力、プレゼン能力の点から審査に当たった。

最優秀の作品は「私たちのフィールド」柏崎中心市街地におけるまちとサッカーの相互成長」がテーマ。サッカー少年だった原澤さんは「まちとスポーツは一体となって変化し成長すべき」と提言。ボールと場所があれば始められるサッカーの特性に注目し、まちとサッカーが相互成長するために必要な期間を30

年と設定した。発表では、市営駅前住宅敷地内に芝生広場を設けるとした第1期から、クラブハウス、練習場の整備によるチームとまちの関わり（第2期）、ブルコートによるまちを挙げての応援（第3期）、さらに大規模な観客席を設け、まちとサッカーが成長するまでの第4期を掲げ、サッカーとまちが成長することで私たちのフィールドがつくられていく」とまとめた。

優秀賞は「柏崎市西山町を事例とした買い物難民・子育て世代支援策の提言」道の駅を活用した地域拠点整備方策の研究（中間発表）」（新潟産大経済経営学

科4年・奥野飛龍さん、岩田桜也さん、3年・村上翔球さん）。会場で田中裕治・工科大学長は「柏崎は文化、歴史面からも興味のある地。その空間をいかに活用するか。研究成果をぜひ発展させてもらいたい」、梅比良眞史・産大学長は「具体的な提案が多く、企業や行政によって実現できるようにしてほしい」と感想を述べた。

阿部会長は「手応えのある発表があり、大変頼もしかった。発表の功績をきちんと評価し、次年度につなげ、より価値の高い学生が生まれるよう働きかけをしていきたい」と語った。

新潟産大名誉学長 北原保雄氏が死去



千葉県柏市増尾台、新潟産業大学名誉学長・北原保雄氏が22日午前4時31分、間質性肺炎のために同市内の病院で死去した。87歳。27日、家族葬が営まれた。

故人は柏崎市野井川の生まれ。柏高を卒業後、旧東京教育大文学部を卒業、同大大学院博士課程中退。筑波大名誉教授・元学長を経て、2013年4月から、18年3月に退任するまで新潟産大学長を務めた。在任中は「地域おこし大学」「入つくり大学」を掲げ、情熱を傾けた。12年春に瑞宝重光章を受章、18年秋の文化庁創立50周年表彰を受賞した。

文学博士で、日本語学・言語学の権威者で、日本語に関する著書を専門書から一般向けまで多数執筆・監修している。また「日本語大辞典」（全13巻、小学館）第2版の編集に当たるとともに、長年にわたり「明鏡国語辞典」編集に携わり、辞典としては異例の話題作・ヒット作になった。

生前、ソフィアセンターに専門書から「問題な日本語」など一般向け図書約170点を寄贈し、「記念文庫」が設けられている。飾らない人柄でウィットに富み、多くの人から敬愛されていた。

<p>★エビチリソース ¥792→¥600</p> <p>★カニ玉ラーメン ¥968→¥700</p> <p>◎料理、オードブル、お弁当のお持ち帰り承ります 営業時間/17:30~3:00(月曜定休)</p>	<p>★プラス2,000円で飲み放題もできます(料金は税別)</p> <p>中華美食館</p> <p>柏崎市東本町2-7-5 ☎23-4530</p>	<p>四季を楽しめる大人の隠れ家</p> <p>代代</p> <p>柏崎市中田・☎23-1550(日・木定休)</p>	<p>飲み放題</p>
--	--	--	-------------

「新潟産業大学」

地域に学び

地域をふさぐ

— 実践活動レポート —

「柏崎冬フェス」 若者の力を結集

「柏崎の冬を、若者の力で盛り上げたい！」そんな願いから、学生たちが立ち上げた「柏崎冬のフェスティバル」が今年もやってきた。まちかど研究室「新潟産業大学主催イベントとして、昨年度に引き続き3回目の開催となる今回は、本学学生、卒業生のほか、別地区で活動中の新潟大学生らをはじめ、県内大学、市内の企業等、19団体が参

加。ワークショップやスティーシ発表といった多彩な内容で、会場は多くの来場者でにぎわった。

参加団体にはこれまでの学生による地域連携活動でつながりを得られた方々をお誘いしており、このイベントを契機に、つながりの輪をさらに広げたいという思いが込められている。

4年の狩野泰輔さんは、「フレッシュコーヒーNo.1」のコーヒーを販売。えんま市で同店の倉庫を学生の出店場所として提供いただいで

以来お世話になっており、イベントでふるまうコーヒーの淹(い)れ方を研究してきた。「準備段階での苦労もあったが、お客様に「コーヒー美味(おい)しかったよ」と声をかけていただいた時は大きな喜びを感じた」と満足気。

今回初参加の「くらしのサポートセンター」えきまえの皆さんとは、今年度、学生による高齢者向けスマホ教室を開催するなど交流が始まった。職員金子ユリ子さんは「若い人の力を借りることで、地域の支え合い事業を紹介できた。今後も若者らとどんな化学反応が起こせるかが楽しみ」と期待する。

昨年11月の日経新聞社「大学の地域貢献度調査

では、本学は2千人未満の小規模私立大学で全国7位という結果を残した。今後も一つひとつの地域とのつながりを育み、大きなねりを起(おこ)せる若者たちの力を、大(おほ)きくしたい。

経済学部准教授、地域連携センター長・権田恭子(同大学地域連携センタ



就活“本番”直前

市内2大学 学生を応援

3月1日から本格的に就職活動が始まるのを前に、市内2大学は就活直前対策として企業説明会などを実施。学生の「内定」獲得を支援した。

新潟産大(梅比良真中学位)は6日、産文会館で企業研究セミナーを開き、3年生約60人が就職担当者から業務概要などの説明を受けた。学外施設での開催は2年目。セミナーに参加した30社・団体の中に同大卒業生のリクルーターもいた。



県内外30社が参加した新潟産大の企業研究セミナー

した。同大就職委員長の橋本太郎教授は「なるべく早い時期に企業担当者と対面で会うことは就職指導する



141社が参加した新潟工科大の合同企業説明会

上でも有益。業種などにとられず、幅広く検討してほしい」と見守った。

新潟工科大(田辺裕治学長)は今月上旬に集中ガイダンス「就活E&K」を行い、26日までの3日間、学

内合同会社説明会を開いた。午前・午後入れ替え制で参加企業数は同大産学交流会などの141社。学生は3日間で延べ290人が参加。県内就職希望の先進製造コース3年・山田啓矢さんは「新潟に魅力

がある企業がたくさんあることが分かった。製造設計にかかわる仕事に就きたい」。同大就職委員長の五十嵐賢次准教授は「ものづくり大学を支える企業を知るチャンス。なるべく早めに就職を決めてもらい、卒業研究に打ち込んでほしい」と期待した。

母国バレー発展へ奮闘

モンゴル出身 新潟産大のエンフさん



バレーボール・モンゴルプレミアリーグ女子の「ホアド・イシル・アルタイン・タイガース」に、Vプレミアリーグ女子で活躍したトルガ・エンフトグールド

さん(32)は「レベルの高い日本選手が来てくれることで、チームやリーグの強化、子どもたちの夢にもよい影響しかない」と天気に喜ぶ。

モンゴルでバレーは大人気スポーツ。エンフさんは来日後の2016年に「在日モンゴルバレーボール協会」を立ち上げたり、外国人向けの大会を主催したりするほどの愛好者だ。

昨年10月、同チームのリーグ新規参入が正式に決まった。11月の開幕までに「優れた日本人選手がほしい」と連絡を受けたエンフさんは、急いで知り合いの国内フリー選手やバレー関係者などにあった。時には大学の講義を休み、東京

新潟産大に昨春創設された男子バレーボールチーム。左から3人目がエンフトグールドさん



モンゴルプレミアリーグで活躍する、元Vリーガーの矢内選手（左）と山田選手

まで行って交渉。元J1の矢内ジャスティス選手(24)、元トヨタ車体の山田真理選手(33)との契約をまとめ、レザ取得などにも奔走した。

全てボランティアで行っており、エンフさんは「モンゴルのバレー強化のため。チームは2人から学ぶことがたくさんある。より多くの日本人選手が、モンゴルでプレーしてくれるようになったらいい」と切望。さらに「日本でVリーグのチームと一緒に練習する機会も作りたい」とも話す。

全8チームによるリーグ

矢内選手は、オールスターゲームにも選出された。

エンフさんは昨年4月、

念願だった男子バレーボールチームを学内に創設した。メンバーはモンゴル、ベトナム、日本の9人。活動費やユニフォーム制作費をモンゴル協会が負担し、公式大会にも出場した。「大学に認められ、やがては支援してもらえるように」と願う。今春卒業するエンフさんは、市内企業への就職も決まっている。

「チームは同郷の後輩が引き継いでくれる。長く続き、少しでも強くなっていきたい」と笑顔で託した。